暮らしの視点(27)

独身男女が希望するライフコースの変化

～男女の双方で「両立コース」が最多に～

ライフデザイン研究部 主任研究員 北村 安樹子

1.独身男女が希望するライフコースの変化

独身女性が理想とするライフコースと聞くと、結婚したり、子どもが生まれた以降も共働きを続ける「両立コース」をイメージする人も多いだろう。しかし、若い独身女性を対象とする意識調査では、数年前まで、子育て期に仕事を中断する「再就職コース」のライフコースを支持する人が、結婚・出産後も仕事を続ける「両立コース」を上回っていた。それが、昨年秋に公表された直近の調査では、「両立コース」が「再就職コース」を上回って最多となった。子どもが幼い時期を含めて、仕事を続けるライフスタイルを理想とする人が増えたということになる。

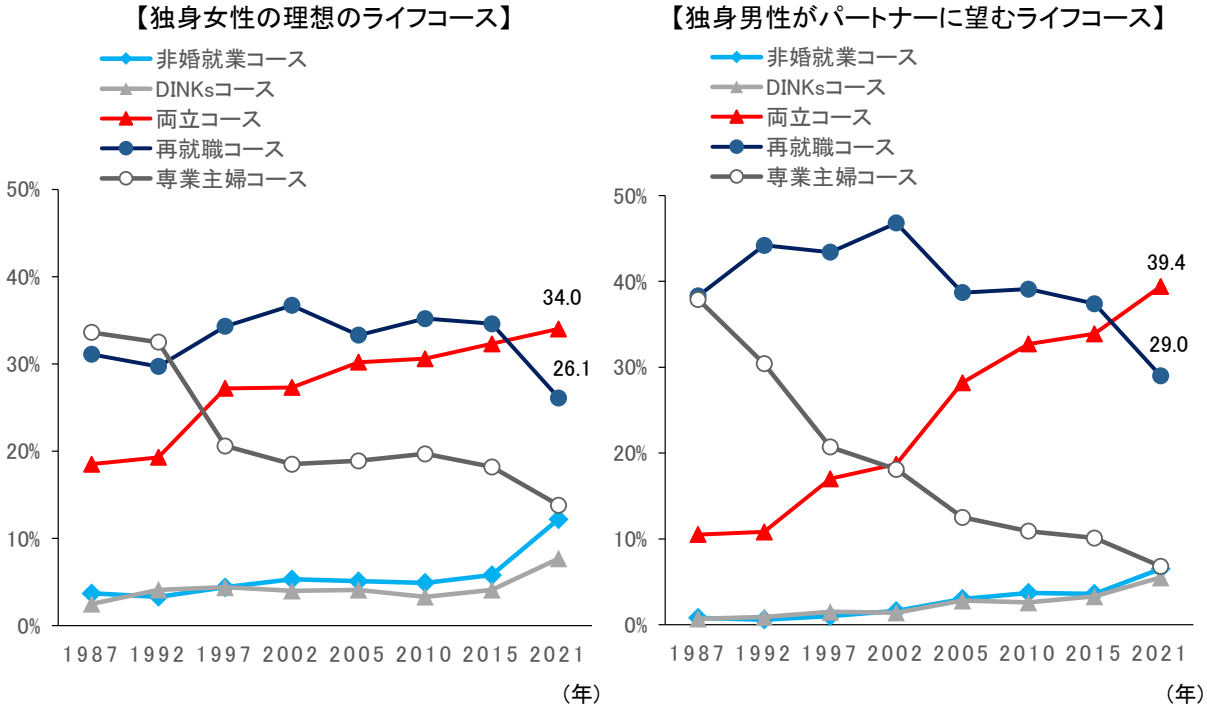
さらに注目されるのは、今回、男性がパートナー（妻）に希望するライフコースも、「再就職コース」を「両立コース」が上回ったことである。本稿では、独身女性が自身の理想としたり、独身男性がパートナーに望むライフコースの新たな展開から得られた示唆を述べる。

2.男女の双方で「両立コース」が最多に

人口問題研究所が実施している「出生動向基本調査」には、独身女性には女性の理想のライフコースを、独身男性にはパートナーに希望するライフコースをたずねる設問がある（注1）。昨年9月に公表された直近の調査結果では、これら2つの設問で「両立コース」（結婚し子どもを持つが、仕事も続ける）が、「再就職コース」（結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ）を上回って、男女の双方で初めて最多となった（図表1）。

「両立コース」の上昇幅は、女性（32.3%→34.0%）より男性（33.9%→39.4%）で大きく、男性がパートナーに「両立コース」を希望する割合の方が高い。また、「再就職コース」と「専業主婦コース」（結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない）は男女とも減少した一方、「非婚就業コース」（結婚せず、仕事を続ける）や「DINKsコース」（Double Income No Kidsの略で、共働きで子どもを意図的に持たない夫婦のこと）を理想とする人も増加した。パートナーとなる女性が結婚・出産後も仕事をもち続けることを希望する男性は、女性より顕著に増える傾向にある。

図表1　独身女性の理想のライフコース、独身男性がパートナーに望むライフコース



*1：対象は 18～34 歳の未婚者。その他および不詳の割合は省略。設問文は、女性の理想のライフコースが「あなたの理想とする人生はどのタイプですか」、1992 年以前は「現実の人生と切りはなして、あなたの理想とする人生はどのタイプですか」。男性がパートナー（女性）に望むライフコースが「パートナー（あるいは妻）となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」、2002 年以前は「女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」。なお、各ライフコースの説明は次の通り。

「非婚就業コース」：結婚せず、仕事を続ける

「DINKs コース」：結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける

（DINKs は Double Income No Kids の略で、共働きで子どもを意図的に持たない夫婦のこと）

「両立コース」：結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける

「再就職コース」：結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ

「専業主婦コース」：結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第 16 回出生動向基本調査　結果の概要」2022 年 9 月より作成

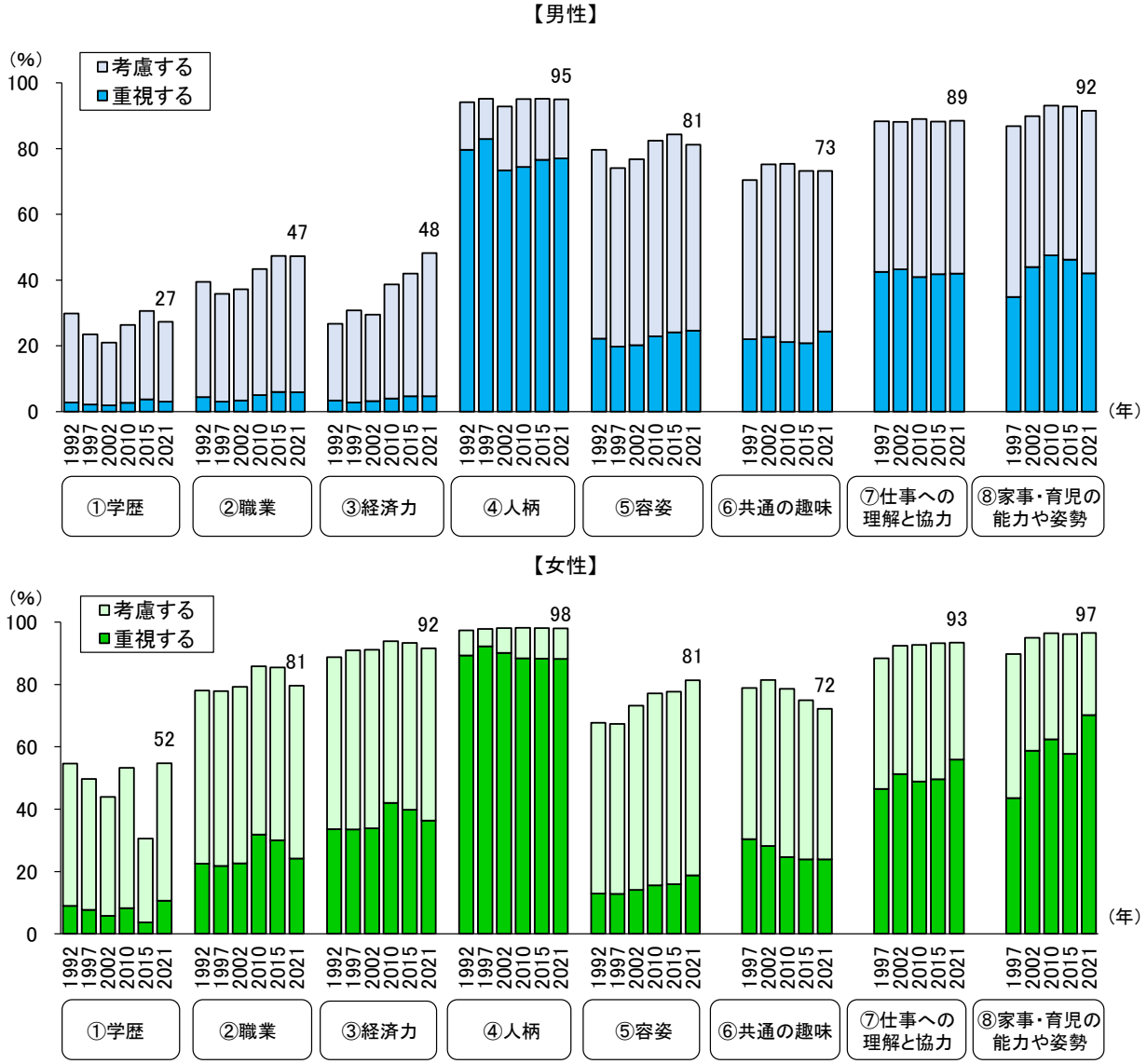
3.結婚相手の「家事・育児の能力や姿勢」を重視する割合が、女性で増加トレンド

今回の調査では、結婚相手に求める条件についても、いくつかの変化がみられ、女性で相手の男性の「家事・育児の能力や姿勢」を「重視する」とした人が、前回調査から10ポイント以上も増加した（図表2）。結婚の意向をもつ女性では、相手の家事・育児に関するスキルや積極性・主体性、あるいは、そもそも外部や他者に委ねることも含め、家事・育児にどのような考えをもっているのかが重視されているようだ。一方、結婚の意向をもつ男性では、相手の女性の「経済力」を考慮する人が増え、重視する人と合わせると半数に迫っている。

これらの結果は、結婚や子どもをもつことを望む人にとって、子どもをもつことや、家事・子育てと仕事の両立に関する相手との価値観の一致が、これまで以上に重要にな

ることを示している。パートナーの選択をめぐって、家計の責任をともに担うことや、家事・育児の進め方、費用・時間のかけ方に関する相互理解や歩み寄りの姿勢が、ますます重視されることになるだろう。

図表2　独身男女が結婚相手の条件として考慮・重視する割合



*1：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した 18～34 歳の未婚者。設問文は「あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑧の項目について、どの程度重視しますか」（①相手の学歴（学歴）、②相手の職業（職業）、③相手の収入などの経済力（経済力）、④相手の人がら（人柄）、⑤相手の容姿（容姿）、⑥共通の趣味の有無（共通の趣味）、⑦自分の仕事に対する理解と協力（仕事への理解と協力）、⑧家事・育児に対する能力や姿勢（家事・育児の能力や姿勢）。選択肢は「1.重視する」「2.考慮する」「3.あまり関係ない」

資料：図表1に同じ

なお、今回、結婚しないライフコースや子どもをもたないライフコースを理想と考え

る女性や、「一生結婚するつもりがない」と答える若者も増加した。これらの傾向に関しては、コロナ禍という特殊な社会状況の影響を受けた可能性はあるものの、配偶者や子どもをもたない人生を視野に入れ、経済面の生活設計だけでなく、健康管理・健康づくりや、趣味・ライフワークなどを通じた人とのつながりに関心を強めた人も多いのではないだろうか。

これまで、結婚や子どもの誕生といった家族形成の機会は、経済面や健康面のリスクへの備えを考えるきっかけになってきた。家族をもたないライフコースを歩む人が増えるなか、経済面の生活設計とともに、心身の健康や人とのつながりを意識したライフデザインを行うことが、多くの人にとって大切な時代を迎えているといえるだろう。

【注釈】

1) この調査には男性がパートナーとなる女性に望む理想のライフコースについての設問がある一方、男性が理想とする自身のライフコースや女性がパートナーとなる男性に望む理想のライフコースについての設問はない。また、過去に行われた調査とは設問文が一部異なるため、結果の解釈には留意が必要である。